



会長会見

官民共創で拓く、日本の成長と国民の健康

2026年7月30日

日本製薬工業協会 会長 宮柱 明日香

Co-creation 

1 2月以降の振り返りとアクションプラン

2 骨太の方針2026

3 日本成長戦略会議

4 日本の成長と国民の健康に向けた製薬協のコミットメント

1 2月以降の振り返りとアクションプラン

2 骨太の方針2026

3 日本成長戦略会議

4 日本の成長と国民の健康に向けた製薬協のコミットメント

共創機会：対話を通じた課題の把握・議論そして追及

未来の「医療のあるべき姿」を創り出すための対話・共創を継続している



1月～4月 日本成長戦略会議

『合成生物学・バイオ』『創薬・先端医療』2つのワーキンググループにて、創薬力の強化、国内製造基盤の強靱化、人材育成の重要性、日本市場の魅力向上の必要性を主張。



4月 CPHI Japan*

製薬協の進める医療DXの構想を紹介。医療関係者/行政/製薬企業など多様なステークホルダーと連携し、医療DXの価値を国内外に発信した。



6月 BIO International Convention 2026

パネルディスカッションにて、日本市場および臨床試験環境の魅力を世界のバイオテック企業に紹介。海外発イノベーションの日本導入を促進し、将来のドラッグ・ロスの抑制につなげることを目指す。



7月 創薬力向上のための 官民協議会

業界の視点から課題認識や提言を共有し、創薬エコシステム強化に向けた議論を行った。

*製薬業界のサプライチェーン全体を網羅する国内最大級の国際展示会

- 米国サンディエゴで行われたBIO International Conventionにて、製薬協によるパネルディスカッション演題が採択され、製薬協、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構(PMDA)ワシントンオフィス、日本医療研究開発機構(AMED)、ベンチャーキャピタルのパネリストとともに登壇
- 約100名近くのオーディエンスに対し、日本の医薬品市場の魅力を発信し、官民で日本のプレゼンスを上げる機会となった



Enhancing the Japanese Market and Its Clinical Trial Environment, New Opportunities for Global Start-Ups

June 22, 2026 3:00 PM - 4:00 PM 29C

Type: Breakout Session Focus Area: Emerging Opportunities in Global Markets

When Emerging Biopharma (EBP) companies consider globalization, what criteria guide their choice of markets to enter? In Japan, the evaluation of innovative new drugs has advanced significantly, creating an environment that is more open and attractive for startups and EBPs than ever before. Support from AMED, PMDA, and other government organizations has expanded, fostering new business opportunities through reforms in pharmaceutical regulations and drug pricing, improvements in clinical trial infrastructure, and increased opportunities for talent exchange and business matching. Japan now stands as a strategic gateway to Asia, especially for US and European startups. This session will share the latest updates and insights from Japan for entrepreneurs exploring opportunities in the Asian region.

Subtopic

Policies for and Challenges to Fostering Biotech Innovation Globally



産業ビジョン2035の実現に向けて10の主要テーマを推進

製薬協の取組

実現したいこと

創薬

製薬業界からアカデミア・AMED
へのノウハウの提供

官民対話を通じた投資・
シーズ誘致の着実な実行

日本特有の
創薬エコシステムの強化

生産

バイオ医薬品、新規モダリティの
生産体制整備の検討

生産における
バイオ人材の育成

主にバイオ医薬品を
対象とした生産機能誘致

制度

製薬内外ステークホルダーとの
財源に関する共通課題解決

薬価に反映すべき
革新的新薬の価値の議論開始

予見性改善と医薬品の価値
に応じた薬価制度

国際的知財保護・
知財施策の推進

審査報告書の充実
ASEAN諸国とのリライアンスパス

グローバルの規制調和

医療DX

主幹組織立上げとステーク
ホルダー横断の議論の実施

医療DXの全体構想・
実行計画の策定

新しい財源再配分モデルの
導入方針の策定

1 2月以降の振り返りとアクションプラン

2 骨太の方針2026

3 日本成長戦略会議

4 日本の成長と国民の健康に向けた製薬協のコミットメント

骨太の方針2026 (1/2)

官民での対話アジェンダ

記載内容

国民への影響

MFN対策（緊急）

例えば、米国の医薬品に係る最恵国待遇（MFN）価格政策など、足元、諸外国の医薬品を巡る政策の動きがある中でも**必要な医薬品等が確実に上市される環境整備**、…

医薬品の市場成長

2025-26年度
アクションプラン【制度】

我が国の医薬品市場の魅力を高める観点から、**医薬品の画期性に対する初収載時における適切な評価**や**特許期間中の薬価の在り方**（脚注）を含め、革新的新薬のイノベーションの更なる評価について 検討を進める。
（脚注） 市場拡大再算定及び持続可能性特例価格調整等。

費用対効果評価制度

2025-26年度
アクションプラン【制度】

費用対効果評価制度について、客観的な検証を進め、これも踏まえ、制度の発展に向けた更なる見直しについて具体的に検討し、一定の結論を出す。

創薬エコシステムの強化

2025-26年度
アクションプラン【創薬】

創薬・先端医療を成長経済の牽引役として、研究開発力や製造・供給の強化、流通体制の強靱化、スタートアップ支援、**人材育成**、先進医療の対象拡大、国際展開を総合的に推進する。

グローバルの規制調和

2025-26年度
アクションプラン【制度】

国際水準の治験・臨床試験体制を整備し、国際共同治験の倍増を目指す。

01 Innovation

- ◆ **革新的な新薬の創出を通じて、国民の健康と命を守り、日本経済の成長と競争力強化に貢献する**

骨太の方針2026 (2/2)

官民での対話アジェンダ

医薬品安全保障

2025-26年度
アクションプラン【生産】

医薬品の製造体制整備

2025-26年度
アクションプラン【生産】

物価対応

医療DX

2025-26年度
アクションプラン【DX】

医療財源の在り方

記載内容

特定重要物資を含む供給確保の必要性が高い医薬品等の国産化等による安定供給、先端技術の実用化を目指す。

創薬・先端医療を成長経済の牽引役として、研究開発力や**製造・供給の強化**、流通体制の強靱化、スタートアップ支援、人材育成、先進医療の対象拡大、国際展開を総合的に推進する。

経済・物価動向等の影響を受ける市場実勢価格を薬価調査等により的確に把握したうえで、創薬イノベーション、医薬品の安定供給と国民負担の軽減の観点から、令和9年度薬価改定を実施する。

連立政権合意書（令和7年10月20日）に盛り込まれた13の社会保障改革項目について合意された具体的な骨子（脚注）に基づき、2026年度中に具体的な制度設計を行い、順次実行する。

（脚注）「社会保障改革項目に関する具体的な骨子」（令和8年7月7日 自由民主党・日本維新の会 社会保障制度改革協議体）。

“医療DXによる価値を定量的に評価する方策の具体化に向けた検討を進める。”と文書内に記載あり

社会保障制度が果たす機能を損なわないよう配慮しつつ、社会保障負担率の目標の検討を進め、これとあわせて、社会保障改革について2026年度中に改革項目の具体化と工程の明確化を図り、順次実施する（脚注）。

（脚注）・・・診療報酬に経済・物価動向等を基本的に反映しつつも、**医療給付費の対GDP比や雇用者報酬の伸びとの関係などを参照しつつ**、医療費適正化計画の次期改定に向けて抜本的な見直しを行うことを含め、改革を継続する。

国民への影響

02 Access

- ◆ 必要な医薬品を将来にわたり安心して使用できる環境を維持し、国民生活と経済安全保障を支える

03 Trust

- ◆ 持続可能な社会保障制度を構築し、必要な医療を必要な時に受けられる社会を実現する

1 2月以降の振り返りとアクションプラン

2 骨太の方針2026における反映状況

3 日本成長戦略会議

4 日本の成長と国民の健康に向けた製薬協のコミットメント

製薬協 主張

3つの柱

1. 創薬力 復活
2. 国内製造力 強靱化
3. 人材基盤 堅持・強化

産業の課題

日本の医薬品市場の成長の停滞による、市場魅力度の低下が、日本の医薬品産業のボトルネックである

最重要メッセージ

世界から選ばれる「創薬の地」となるために、日本の特許品市場を世界に比肩する成長率(年平均9.6% ※¹)へ引き上げ、日本市場の魅力度を高めることが最重要

*¹ 2020-2024年の特許品の世界市場（日本を除くG7）年平均成長率：9.6%

官民投資ロードマップが描く、日本の創薬の未来

1. 革新的な新薬を、いち早く日本の患者さんへ

- ✓ 我が国の医薬品市場の**魅力度向上**を図り、海外市場と遜色のない国内市場の実現に向け、**日本国内の特許品市場について世界の成長に比肩する成長**を目指す
- ✓ 革新的新薬の**イノベーションを評価する**仕組みを検討する

2. 必要な医薬品を、いつでも日本で届けられる国へ

- ✓ バイオ医薬品・再生医療等製品・部素材の**自国創製・国内製造**による**他国依存度（供給途絶リスク）を低減**する
- ✓ **感染症対応医薬品**（原材料・原薬を含む）の研究開発支援、国内製造施設の整備・生産体制の確保を推進する

3. 世界を変える創薬人材を、日本から

- ✓ **人材の育成と流動化を促進**する
- ✓ VCや製薬企業等の**グローバルステークホルダーとの連携を強化**し、資金・ノウハウを呼び込み、創薬分野の**国際競争力**を高める

医薬品は「コスト」ではなく未来への「投資」である

約64.1兆円^{*1}

成長戦略に基づく医薬品産業への累計官民投資規模（～2040年）

成長投資によって実現する、2040年の日本市場の姿（単年）

成長戦略の投資規模とは別途算出

粗付加価値^{*2}

+12.8兆円

医薬品産業は産業の中でも付加価値が高い

雇用創出^{*2}

+106万人

全国の雇用・地域経済を下支え

健康増進による生産性向上^{*3}

対象3疾患の合計額

+2.7兆円

健康な人が長く働き、生産性の向上につながる

^{*1} 2026年6月25日 戦略17分野における「主要な製品・技術等」の官民投資ロードマップ（案）のうち医薬品関連の投資額をもとに作成。2027年から2040年までの累積の投資額を記載。

^{*2} 粗付加価値と雇用は2040年・成長投資ケースとリスクケースからの差異から概算 ^{*3} 乳がん、認知症、メンタルヘルスの疾患領域において、今後、革新的新薬により、患者や介護者の負担軽減や就労機会の拡大を通じて生み出される生産性向上の概算

出典：みずほ銀行推計値より、日本製薬工業協会作成

1 2月以降の振り返りとアクションプラン

2 骨太の方針2026における反映状況

3 日本成長戦略

4 日本の成長と国民の健康に向けた製薬協のコミットメント

誰もが必要な医療にアクセスできる持続可能な社会を実現するために

革新的な医薬品を創出し続けるため、研究開発とイノベーションへの投資を続ける

国内製造基盤、人材育成、医療DX等を強化し、創薬・バイオ産業の競争力を高める

日本市場の魅力向上に向け、多様なステークホルダーとの共創を推進する

政策の具体化と実行に向け、官民協議を通じた議論に積極的に協力する

